

1970年昭和45年街並み

2008年工事着工前

平成22年度 第19回建築作品 奨励賞 高田建築設計事務所(長岡市)

秋山孝ポスター美術館 長岡



* 芸術家は田舎に帰る! 小さな美術館構想!

* 地の力!と建築の力!

歴史的建造物のリノベーション

大正15年から(計画時85歳)生きてきた建物は当初銀行であつた。

その後、商店倉庫に。そして現在、美術館としてリザレクション(復活)リスタート(再出発)した。

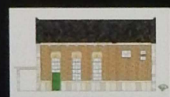
当建設地は醸造業の町根田屋と隣接している。

長岡市は第二次大戦の戦火を受けたが、酒業への延焼を食い止めた価値ある建築でもある。中越地震にも耐えた。

使命を終えた建築物は去るのみの風潮のなか、奇蹟的に一粒の火種が起きた。有志が集まり歴史的建造物である調査と復興資金援助を得て、サポーターズ倶楽部を立ち上げた。

地元出身のアーティスト兼教育者である秋山孝氏(多摩美術大学教授)の美術館としてのリノベーション構想である。大切なものは「もの」だけでなく、活動することが重要!

ハードとソフト両面からのプロジェクトであつた。美術館(ハード) + 美術館活動(ソフト・運営)。豊かな街には歴史があり美がある。その歴史と美が次の世代に継承されるステージ(居場所)としてのリノベーションであつた。



火をくい止めた美術館「火の壁」と、
中越地震を生き延びた美術館「地の壁」の名を持つ

新潟県長岡市は、いくつもの難値を背負ってきた町です。それは、1868年(慶応4)の戊申の役、1945年(昭和20)第二次大戦において県内唯一焼夷弾投下による空襲被災を受け多くの人がなくなり、また2004年(平成16)新潟県中越地震においても大きな災害を受けました。その都度、力強く立ち上がり生き抜いてきました。長岡市には、復興にあたり大切にしてきたものに「未来に向けての教育」があります。それは人々に歴史を通して街の誇りを作り上げ、それを支えるのが東山と信濃川からの美しい自然と恵みです。その結果小さな街にも関わらず博物館や美術館が多くあり、「豊かな美を感じる精神」を育んできました。デザイン都市長岡に、世界でも類のないポスターを中心とした満遍な美術館が生まれます。



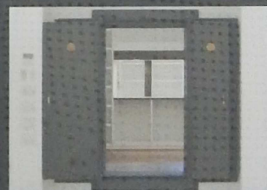
正面入口西側「美の壁」



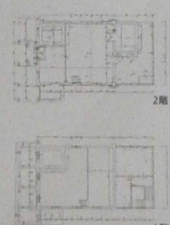
戦火をくい止めた北側「火の壁」



中越地震を生き延びた南側「地の壁」



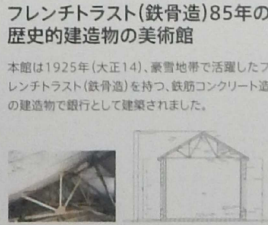
1階床面積108.06㎡ 2階床面積33.52㎡ 延床面積141.58㎡



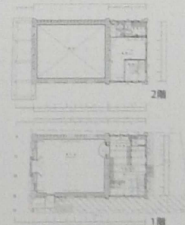
平面図(改修前)



内外装・耐震補強のリノベーション工事



耐震補強図



平面図(改修後)



立面図(改修後)

フレンチトラスト(鉄骨造)85年の
歴史的建造物の美術館

本館は1925年(大正14)、豪雪地帯で活躍したフレンチトラスト(鉄骨造)を持つ、鉄筋コンクリート造の建造物で銀行として建築されました。



発信受信する美術館
(研究機関)
教育・交流



第6回美術展「上越小・美術展」教育・交流



上越小 図画工作展「あなたならどう読む?」絵に込められたメッセージ」



第5回企画展「学生展」イラストレーションスタディーズ」と記念交流会



第3回美術展「建築構造の美」対談 吉澤公男・秋山孝と記念交流会